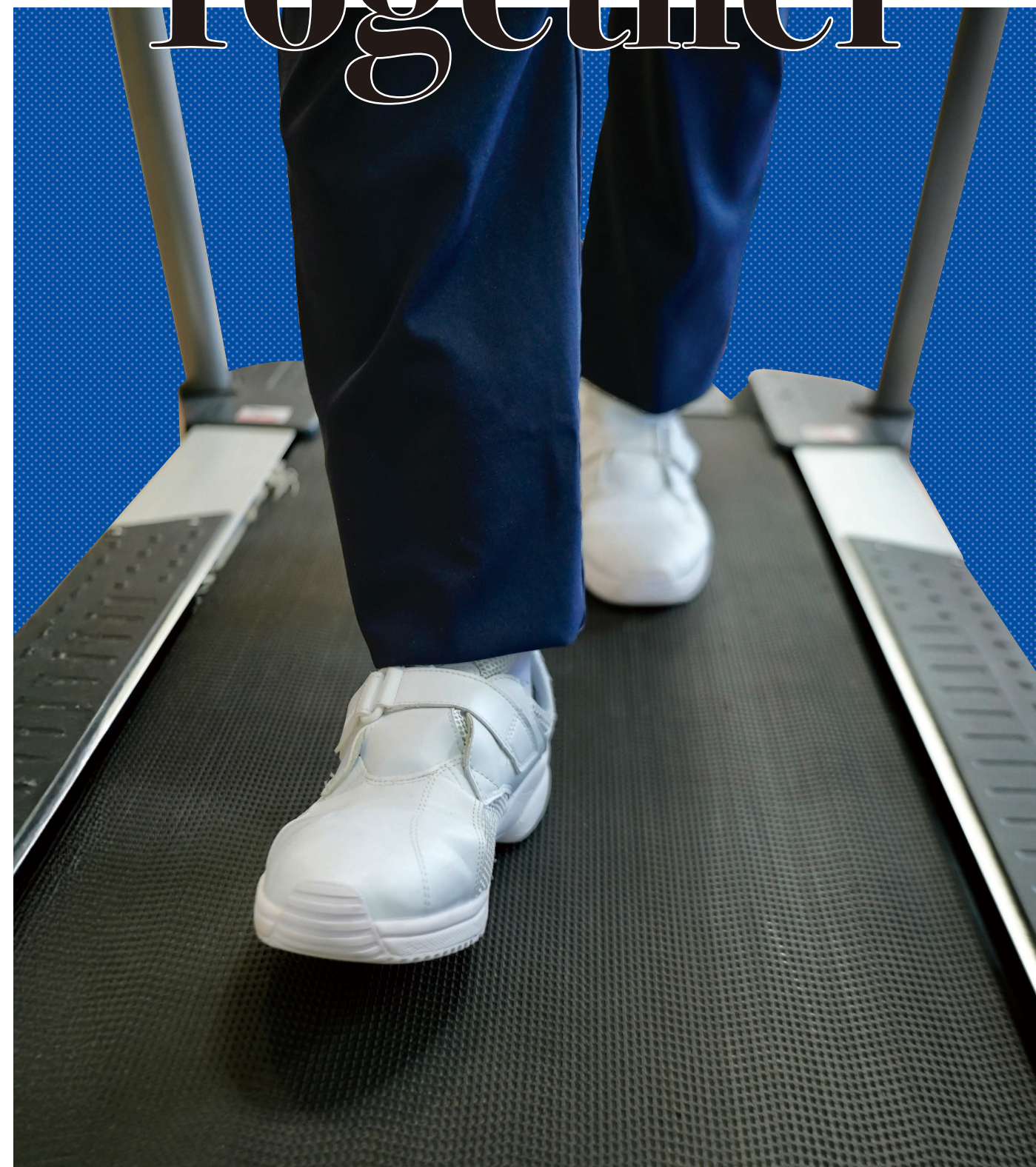


Together



歩行支援機器の
解説動画はこちら



「また歩きたい」を支える 歩行リハビリテーション

一人ひとりの状態に合わせた歩行支援機器をご紹介します

脳卒中や骨折、さまざまな病気やケガのあと、「もう歩けないのではないか」と不安を抱える方は少なくありません。歩行機能の回復には、一人ひとりの症状や回復段階に応じた適切なリハビリが重要です。下関リハビリテーション病院では、患者さんの状態に合わせて複数の歩行支援機器を導入し、理学療法士をはじめとしたスタッフが安全に歩行練習をサポートしています。「また歩きたい」という想いに寄り添いながら、自分らしい生活を取り戻すためのリハビリを提供しています。

免荷歩行器POPO

体重を支えながら、
自分の力で歩く感覚を取り戻す

歩き始めの患者さんにとって、「体重を支えられるだろうか」「転んでしまわないだろうか」という不安は大きなものです。免荷歩行器POPOは、ハーネスによって体重の一部を支えながら歩行練習を行える歩行支援機器です。体への負担や転倒への不安を軽減しながら、自分の足で歩いている感覚を保ったままリハビリを進められることが大きな特徴です。歩行器を押して前へ進む自然な動きを繰り返すことで、実際の歩行に近い感覚を身につけ、安全に歩行能力の向上を目指します。



つり上げ式トレッドミル

安心して「歩く量」を
増やせるリハビリ機器

歩行機能を回復するためには、繰り返し歩くことがとても重要です。しかし、脳卒中後などでは転倒への不安から十分な歩行練習が難しい場合があります。つり上げ式トレッドミルは、ハーネスで身体を支えながらベルトコンベア上を歩くことで、安全に歩行練習を繰り返せる機器です。さらに装具や理学療法士による介助を組み合わせることで、患者さんの状態に合わせた歩行訓練が可能になります。安心できる環境の中で歩く回数を重ねることが、歩行能力の回復につながっています。

Prime Walk

立つことが難しい方の
「最初の一步」をサポート

麻痺や長期間の安静によって足に力が入りにくくなると、「もう立てないかもしれない」と感じる患者さんも少なくありません。Prime Walkは、両足をしっかり支えながら、足の振り出しを補助する機構によって、安全に歩行動作を練習できる歩行支援機器です。また、症状が重い患者さんや不安が強い方には、理学療法士など複数のスタッフが付き添いながら歩行練習を実施します。安全な環境で「歩けた」という成功体験を積み重ねることが、自信につながり、その後のリハビリへの意欲や歩行能力の回復を支えています。

